

新種発見から半世紀ぶりに確認されたカタミノフクロツナギ *Chamaeobotrys lomentariae* (Tanaka et Nozawa) Huisman (紅色植物門マサゴシバリ目)

木森万奈生・天野裕平・寺田竜太

〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部

はじめに

鹿児島県種子島と馬毛島の周辺は、平坦な海底が水深 30–60 m にかけて広範囲に広がっている。本海域からは、シンカイユナ *Chondria mageshimensis* Tanaka et Nozawa (紅藻綱イギス目) やゴアンメ *Punctaria mageshimensis* Tanaka (褐藻綱ウイキョウモ目) などの固有種が 1960 年代に新種として多数報告されている (Tanaka 1960, 1963a, b, 1965 等)。

カタミノフクロツナギ (紅藻綱マサゴシバリ目) は *Coelarthrum lomentariae* Tanaka et Nozawa として、鹿児島県馬毛島沖の水深 45 m より原記載された (Tanaka 1963b)。しかし、本種に関するその後の報告はなく、北海道大学総合研究博物館 (SAP) の基準標本 (SAP 052169) を除き、国内外の主要海藻標本庫に標本が収蔵されていなかった。本種は、1) 体が直立すること、2) 体の各部が付着しないこと、の 2 点でスジコノリ *Chamaeobotrys boergesenii* (Weber-van Bosse) Huisman と区別される。Huisman (1996) は、オーストラリア産フクロツナギ属 *Coelarthrum* を再検討した際に本種をスジコノリ属 *Chamaeobotrys* に移した。しかし、原記載以外に情報がないことから、Huisman (1996) や吉田 (1998) は種の独立性について指摘していた。

Kimori, M., Y. Amano and R. Terada. 2010. Reconfirmation of *Chamaeobotrys lomentariae* (Tanaka et Nozawa) Huisman from offshore of Mageshima, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 165–167.

✉ RT: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: terada@fish.kagoshima-u.ac.jp).

Tanaka (1963b) が報告した採集地は、沖合 5–10 km 程度の外洋に位置する。沖合であることから、水深が 30 m 以深であることから、SCUBA での調査が不可能である。筆者らは 2007 年以降、Tanaka (1963b) 等と同じ方法であるドレッジを用いた調査を馬毛島沖で開始し、当該海域で報告された実体不明種の再検討をおこなっている。今回、本種の生育を半世紀ぶりに確認したことから、本種の形態についてスジコノリと併せて報告する。

材料と方法

調査には鹿児島大学水産学附属練習船南星丸を用い、鹿児島県熊毛郡西之表市の馬毛島南方沖の調査定点 3 ケ所 (#1: 30°41.572'N, 130°49.806'E; #2: 30°41.463'N, 130°51.013'E; #3: 30°42.069'N, 130°52.323'E) で 2007 年 7 月 9 日, 2009 年 6 月 17–18 日, 7 月 2 日, 10 月 12–13 日に実施した。採集にはドレッジを用い、水深 30–35 m の海底より採集した。調査地 3 定点は地形的に連続することから、採集物は一括して取り扱った。なお、比較に用いたスジコノリは、2009 年 6 月 17 日に馬毛島沖の同地点で採集した。採集した材料は冷凍または生かした状態で鹿児島大学水産学部水産植物学研究室に持ち帰り、外形および内部構造を観察した。観察標本は同研究室標本庫に収蔵した。

結果と考察

Chamaeobotrys lomentariae (Tanaka et Nozawa) Huisman 1996: 109

カタミノフクロツナギ (Figs. 1–3)

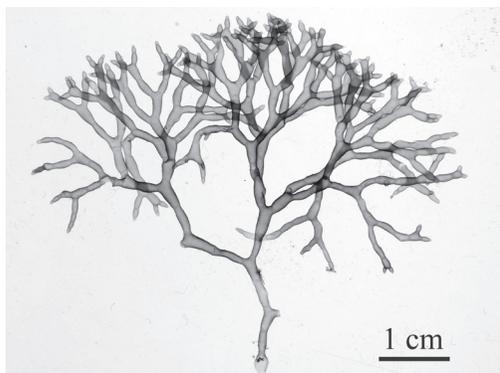


Fig. 1. Natural habit of *Chamaebotrys lomentariae* (Tanaka et Nozawa) Huisman from Mageshima (Island), Kagoshima Prefecture (Terada 4711).

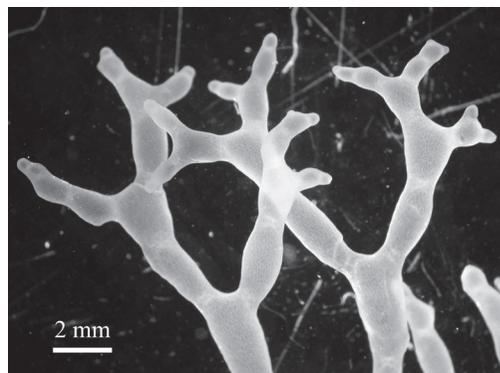


Fig. 2. Habits of apical portion, showing dichotomous branching (Terada 4076).

Basionym: *Coelarthrum lomentariae* Tanaka et Nozawa in Tanaka 1963b: 79.

吉田 1998: 843.

Type locality: Mageshima (Island), Kagoshima Prefecture, Japan.

Holotype: SAP 52169.

Specimens examined: Mageshima, Kagoshima Prefecture, Japan, Terada 4075, 4076, July. 9, 2007; Terada 4711, June 17, 2009; Terada 4712, June 18, 2009; Terada 4713, July 2, 2009; Terada 4714, Oct. 12, 2009.

体は円柱状で直立し、高さ 5 cm までになり、二叉または不規則に繰り返し分岐する。枝は直径 1–2 mm で、各所でゆるやかにくびれる。内部は中空で、皮層は 1–2 層の小形で球状の細胞からなり、内層は 1 層の大型細胞で構成される。質感は柔らかく、薄紅色から黄褐色を呈する。

Chamaebotrys boergesii (Weber-van Bosse)

Huisman 1996: 106

スジコノリ (Fig. 4)

Basionym: *Coelarthrum boergesii* Weber-van Bosse 1928: 473.

吉田 1998: 843.

Type locality: Borneo Bank, Indonesia.

Lectotype: L 8811-1 (Leiden).

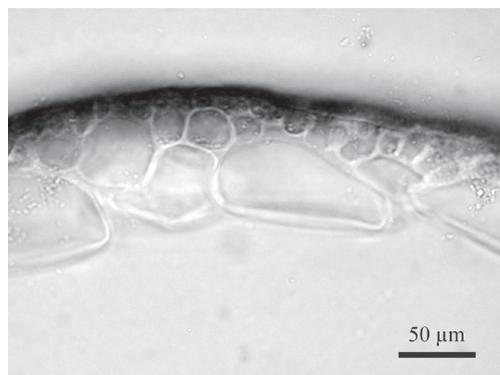


Fig. 3. Transverse section of main branch, showing the cortex (Terada 4076).

Specimen examined: Mageshima, Kagoshima Prefecture, Japan, Terada 4715, June 17, 2009.

体は円柱状で、各所で著しくくびれ、各節は長球状を呈する。二叉または三叉、多叉状に不規則に分岐する。枝先の各所で癒着し、塊状に匍匐する。内部は中空で、皮層は 1–2 層の小形で球状の細胞からなり、内層は 1 層の大型細胞で構成される。質感は柔らかく、薄紅色から黄褐色を呈する。

カタミノフクロツナギは、体の各所でくびれる点と、体内部に 1–2 層の皮層と 1 層の内層を持つ点でスジコノリに似る。しかし、スジコノリは枝先の各所で癒合して塊状に匍匐するのに対し (Fig. 3)、カタミノフクロツナギは直立し、枝が

癒合しない点で異なる。吉田（1998）は Tanaka（1963b）の原記載のスケッチが甸甸しているように見えることを指摘し、より多くの標本での再検討の必要性を指摘している。本研究において、カタミノフクロツナギの生育時の形態が初めて明らかになり、原記載のとおり直立すること、枝は癒合せず甸甸しないことが確認された。また、同一の生育地においても2種の形態は明らかに区別できた。

カタミノフクロツナギは水深 30–35 m にかけての海底からドレッジで採取された。本種は砂礫に点在する大礫や岩塊上に生育し、スジナシグサ *Aneuianna lorenzii* (Weber-van Bosse) Phillips や シンカイカバノリ *Gracilaria sublittoralis* Yamada et Segawa などと混生していた。本種は基準産地である馬毛島沖のみで知られており、基準産地以外での報告はない。本種の分布の範囲については、南西諸島や九州南部の漸深帯で同様の調査をおこない、生育の有無について詳細に把握する必要があると考える。

環境省のレッドリスト（環境庁 2000；環境省 2007）は、南西諸島に分布する海藻類として、絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 6 種と II 類 (VU) 12 種、準絶滅危惧 (NT) 30 種を報告すると共に、情報不足として 23 種を掲載している。絶滅危惧種としての記載は希少性の評価が重要であり、分布や生育状況等の知見が十分でない種類は情報不足として掲載される。しかし、初記録以降に報告のなかったカタミノフクロツナギは、生育の実体そのものが未確認だったことから、情報不足のカテゴリーにも掲載されていなかった。今後は、本種の分布や生育環境について詳細に研究をおこない、希少性を評価することが求められる。

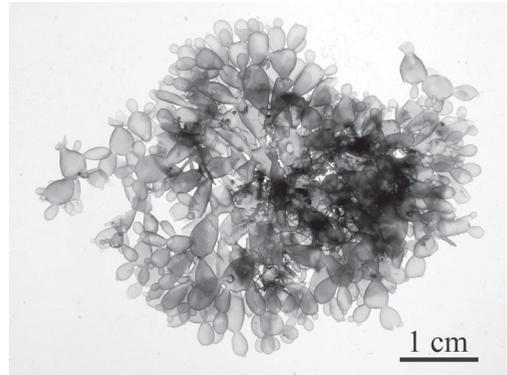


Fig. 4. Natural habit of *Chamaeobotrys boergesenii* (Weber-van Bosse) Huisman from Mageshima (Island), Kagoshima Prefecture (Terada 4715).

引用文献

- Huisman, J. M. 1996. The red algal genus *Coelarthrum* Børgesen (Rhodiyeniaceae, Rhodiyeniales) in Australian seas, including the description of *Chamaeobotrys* gen. nov. *Phycologia* 35: 95–112.
- 環境庁自然保護局野生生物課（編）2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物。－レッドデータブック－9, 植物 II（維管束植物以外）。pp. 1–429. 財団法人自然環境研究センター。
- 環境省 2007. 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて。資料 6, pp. 7–11. 環境省自然環境局野生生物課。
- Tanaka, T. 1960. Studies on some marine algae from southern Japan, III. *Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ.* 9: 91–105.
- Tanaka, T. 1963a. Studies on some marine algae from southern Japan, IV. *Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ.* 12: 64–71.
- Tanaka, T. 1963 b. Studies on some marine algae from southern Japan, V. *Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ.* 12: 75–91.
- Tanaka, T. 1965. Studies on some marine algae from southern Japan, VI. *Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ.* 14: 52–71.
- 吉田忠生. 1998. 新日本海藻誌. pp. 1–1222. 内田老鶴圃。